

NEWSLETTER 30

GLOBAL MAPPING

地球地図フォーラム2003で期待される成果

D. R. F. Taylor

カナダ、カールトン大学教授

ISCGM委員長



地球地図フォーラム2003は地球地図整備の10年以上にわたる発展を踏まえて開催されます。第2回地球地図フォーラムは1998年にスーフォールズで開催され、その会合において、ISCGMは、国連の支

援を得て公式に各国の国家地図作成機関に地球地図プロジェクトに参加するよう呼びかけました。地球地図2000は広島で開催され、同年、地球地図第1版が公開されました。

地球地図フォーラム2003は、将来についてよく考え今後の計画を策定するための機会を提供します。地球地図は進展を遂げ、現在、国家地図作成機関を中心に130機関が参加し、12カ国の完全に検証済みのデータが公開されています。南極についてはSCARが、また、カナダ、中国およびメキシコなど20以上の国が公開に向けた検証のために事務局に地球地図データを提出しております。これらの努力は、地球地図が地表のかなりの部分を網羅し、ブラジルなど他の多くの国々でもデータ作成が順調に進展していることを意味しております。

地球地図は2002年8月、ヨハネスブルグで開催された持続可能な開発に関する世界首脳会議において新たな推進力を得ました。つまり地球地図は実施計画で明確に述べられました。また、ISCGMは地球地図プロジェクトのタイプ パートナーシップ・イニシアティブの中心的なパートナーとして正式に認められました。これにより地球地図に責任を負う国家地図作成機関は、自国の貢献のための資源の割り当てに大きな論拠を得たこととなります。実施計画に合意したすべての国家にとって、

地球地図作成の支援は国家的、国際的、両面での義務となります。

地球地図の2007年の完成という新たな目標に対処することになると、多くの困難が世界の共同体を待ち受けています。仕様、フォーマット、適切な縮尺および既存のデータと併せたラスタデータの効果的な利用の促進など、技術面で取り組むべきことがあります。本フォーラムはこうしたことへの挑戦に役立ちます。しかし、大きな困難は技術面ではありません。それはISCGMのすべての参加国が、地球地図を完成させようとする熱意と行動を新たにすることです。私は地球地図フォーラム2003がこの大きな困難を受けて立つ機会となることを期待します。ヨハネスブルグ・サミットにおいて日本国政府は新たな持続可能な開発のための環境保全イニシアティブ(EcoISD)を発表し、地球地図はこれに対して大きな貢献をすることができます。また、日本は地球温暖化、砂漠化、毎年緊急性を増す生物の多様性の保護などの地球環境問題について重要な指導的役割を立証しました。本フォーラムは、地球地図がどのように難しい環境問題に対し貢献できるかを示してくれます。これは1カ国だけの課題ではなく、ISCGMの大きな特徴である国際協力の精神のもとで、すべての国々の課題でもあります。沖縄フォーラムに参加する国家や機関の支援によって地球地図は成功することができるでしょうし、実際にそうなるでしょう。



沖縄コンベンションセンター

地球地図フォーラム in 沖縄 2003 プログラム

第1日7月12日土曜日 コンベンションホール

10:00-11:15	オープンフォーラム	
	司 会	丸山 弘通 国土地理院(地球地図国際運営委員会事務局長)
	基調講演	Prof. D. R. Fraser Taylor 地球地図国際運営委員会委員長
	活動報告	星埜 由尚 国土地理院長
11:30-12:30	特別講演	
		近藤 次郎 東京大学名誉授
14:00-15:00	講演	
	司 会	建石隆太郎 千葉大学
		Santiago Borrero 汎アメリカ地理歴史研究所地図委員会委員長
		Milan Konecny 国際地図学協会(ICA)副会長
		丸山 弘通 国土地理院
15:30-17:00	パネルディスカッション	水問題への解決に向けた地球地図の利活用
	司 会	永山 透 国土交通省

第2日7月13日日曜日 コンベンションホール

9:30-11:00	セッション	グローバルな地理情報整備
	司 会	Peter Holland オーストラリア国土地理院
11:15-12:45	セッション	リモートセンシングによる地理情報
	司 会	祖父江真一 宇宙開発事業団
14:00-15:45	セッション	人間活動・防災・環境への応用
	司 会	都留 信也 国連大学
16:00-17:15	セッション	IT時代における地理情報の流通
	司 会	宮城 隼人 琉球大学

第3日7月14日月曜日 大会議室2

9:30-10:45	セッション	各国の地理情報
	司 会	政春 尋志 国土地理院
11:15-12:30	閉会セッション	地球地図の将来
	司 会	Prof. D. R. Fraser Taylor 地球地図国際運営委員会委員長

第4日7月15日火曜日

9:30-17:00	テクニカル ツアー
	沖縄亜熱帯計測技術センター
	海洋博記念公園
	沖縄美ら海水族館

地球地図の参加状況

地球地図の参加状況

2003年6月25日現在

地球地図の参加国・地域数

130ヶ国・地域

地球地図への参加を検討している国・地域数

20ヶ国・地域

地球地図への最近の参加国

UNECA-CODI 会合が2003年5月10日から17日、アディスアババにて開催された**Haggai Nyapola****ケニア測量局局長****国連開発情報委員会地理情報分科会・高級作業部会座長****参加**

CODI (開発情報に関する委員会) 地理情報に関する小委員会会合は以下の国の代表の参加を得ました: アルジェリア、ベナン、ボツワナ、ブルキナファソ、コンゴ共和国、

コートジボワール、エチオピア、ガボン、ガーナ、ケニア、マリ、モロッコ、モザンビーク、ナミビア、ナイジェリア、ルワンダ、セネガル、南アフリカ、スーダン、スワジランド、タンザニア連合共和国、ウガンダ、ザンビア。

技術事項

アフリカ空間データ基盤に関する常置委員会地域ワークショップ会合は第3回 CODI 会合に先立ち、2003年5月10日から11日に開催されました。本会合では、CODI の勧告に従いアフリカ空間データ基盤常置委員会の設置について検討しました。また、米州およびアジア太平洋地域の常置委員会の規則をもとに、UNECA (国連アフリカ経済委員会) 事務局が作成した当該の委員会の規則案を審理しました。本会合において、CODI Geoが以下を熟慮しアフリカ空間データ基盤に関する常置委員会の役割を担うことに合意しました。

- * 類似の目的を持つ地域および準地域の組織を増加させないようにする必要があること。
- * 提案された組織の目的はCODI 地理情報に関する小委員会の委任事項にすでに含まれているか盛り込まれていること。

役員選挙

本会合では、以下の役員を選挙しました。

委員長 ケニア

副委員長 モロッコ

書記 コンゴ

本会合には、前 ISCGM 事務局員で現在ケニア測量局に派遣され、日本の専門家としてケニアで働く宇根寛氏とともに、ISCGM の委員の南アフリカのデレク・クラークとケニアのハガイ・ニャポラ

が出席しました。宇根氏は研修施設としてのケニア測量地図学院の活動について報告を行いました。

デレク・クラークは、地球地図の活動状況および ISCGM が地球地図プロジェクトの目的を確実にするために行った実績について発表を行いました。ハガイ・ニャポラは ISCGM を代表して発表を行うよう委任されていましたが、本会合の議長であったためにその任務を行うことができず、デレク・クラーク氏が発表を行うよう依頼されました。

地理情報小委員会決議

以下の課題に関して7つの決議が採択されました。

- * CODI 内における情報政策および技術の統合
- * 公的部門と民間のパートナーシップ (PPP)
- * 空間データ基盤について
- * 地理情報への投資について
- * 地理情報に関する意識の向上について
- * NEPAD (アフリカの開発のための新たなパートナーシップ) のためのデータ標準についての CODI Geo の支援
- * これまでの CODI 決議の実施の概要

地球地図について

NSDI s (国家空間データ基盤) の設立を優先すること、地球地図プロジェクト、AFREF (アフリカ参照系) に完全に参加すること、また、現在、アフリカのための空間データ基盤に関する常置委員会の機能を含む CODI Geo の高級作業部会の活動に参加し支援することを、加盟国に対して繰り返し述べた決議が採択されました。



“故郷”に帰りました

丸山 弘通
ISCGM 事務局

7月11日の沖縄における第10回 ISCGM 会合において正式に承認されることとなりますが、ISCGM 事務局長の丸山弘通と申します。私は1996年10月から1999年3月まで地球地図と ISCGM 業務に携わりました。そのため一部の読者の方々には私が ISCGM に在籍したことを覚えておられることと思います。私が最初に勤務した時と比べて、地球地図をとりまく環境は過去数年間で劇的に変化したように感じます。

私が最初に事務局に勤務した時には、地球地図とは何か、その目的は何かなどについて、会う人々に対して説明する必要がありましたが、現在では地球地図はよく理解され、多くの人々は ISCGM を知っています。また、地球地図に関係がないような人々が多くの国際会議で地球地図にふれることをしばしば経験しています。地球地図について話そうと思えば、最初から細部に入ることができます。一方で、ISCGM に課せられた

責任は以前よりもより一層重くなっています。さらに、昨年ヨハネスブルグで開催された WSSD において、地球地図整備の促進が“WSSD の実施計画”で述べられ、ISCGM は2007年までに全球の地球地図を完成することを宣言しました。私は、ISCGM の委員や顧問の方々、国家地図作成機関の人々、そしてこの重要なプロジェクトの多くの支持者の支援を得てこの目標に向けて全力を尽く所存です。



前列中央、事務局長

地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2003年

7月11日、日本、沖縄
第10回 ISCGM 会合

7月12日～13日、日本、沖縄
PCGIAP アジア太平洋地域地籍ワークショップ

7月12日～15日、日本、沖縄
地球地図フォーラム 2003 in 沖縄

7月14日～18日、日本、沖縄
第16回国連アジア太平洋地域地図会議

7月20日～25日、英国、ケンブリッジ
ケンブリッジ会議

8月10日～16日、南アフリカ、ダーバン
第21回国際地図学会議

9月21日～25日、チェコ、ブルノ
第3回 デジタル・アース・シンポジウム

10月または11月、ドイツ
第17回 ISO/TC211 本会議

11月4日～8日、セネガル、ダカール
アフリカ GIS '03 会議 / 展示会

2004年

2月2～6日、インド、バンガロール
第7回 GSDI 会議

2月7日、インド、バンガロール
第11回 ISCGM 会合

編集、発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org